特集

「福」と「幸」を運ぶ列車

SL銀河

4月から釜石線で運行されるSL銀河。
復興のシンボル、地域振興の柱としての
SLの軌跡から
沿線市町村の、未来を探る

昭和25年10月10日、ＪＲ釜石線全線開通。多くの人が駅や沿線に駆け付けた

震災復興の象徴へ SLが待望の復活

4月12日、黒煙を天高く吹き上げ、約半世紀ぶりに釜石線をSLが走る。

運行するのは、盛岡市の岩手県営運動公園で展示・保存されていた蒸気機関車C58。旅客・貨物列車もけん引する力強さと軽快さを備えた万能列車で、愛称「シゴハチ」として親しまれた。JR東日本はこのSLを花巻市と釜石市を結ぶJR釜石線で定期運行させ、観光などの面から震災復興を後押しする。「復興の象徴」として同線を走る列車は「SL銀河」と名付けられた。

SLの躍進と廃止

JR釜石線が全線開通した昭和25年10月。同区間の多くの人と物を運んだ「シゴハチ」は、途中からD50とD51に代わった。通称「デゴマル」「デゴイチ」で、「シゴハチ」よりも動輪が多く、力強い。遠野―釜石間は急こう配があるうえ、多くの旅客・物資を運ぶので、より力強い列車が必要になった。SLは人々の生活になくてはならない存在であり続けた。

高度経済成長期の昭和45年、そのSLもディーゼル機関車へと移行する。石炭や水を一定区間で補給しなければならないSLにくらべ、気動車はその必要がない新しいものだった。便利さが「幸せ」という価値につながった時代、SLは、静かにバトンを渡した。

復興と振興へ前進

数十年の時を経て、復興の象徴として復活するSLを後押ししようと、市は平成25年1月、市産業振興部内に、「SL停車場プロジェクト推進室」を設置した。釜石線でつながる釜石市、花巻市、住田町の沿線自治体と連携し、被災地だけでなく、岩手全体の復興を目指し活動している。

市は各種団体と連携し、これまで商品開発や各種イベントを開催し、SL銀河運行へ気運を高めている。記念商品第1号として、一般社団法人遠野ふるさと公社が遠野産そば粉をふんだんに使った本格焼酎「遠野郷」を開発。県内の酒販店ですでに販売している。また、宮沢賢治による『銀河鉄道の夜』をほうふつさせる宮守町のめがね橋などをプリントした手ぬぐいを販売し、身近にSLを感じられる環境をつくっている。このほか、めがね橋周辺の樹木伐採など景観整備も進めている。

JRはこの取り組みで多くの観光客を見込んでいる。市では、市民一丸となった「おもてなし」と、復興への思いが必要とされている。

ＳＬがつなぐ夢・希望・未来

時代をけん引したＳＬ。ともに歩んだ人たち

右＿黒煙を吹き上げながら遠野駅を出発するＳＬ　上＿池田一次（かずつぐ）さんが作った鉄道模型と、模型を修理した八重樫正昇（まさのり）さん

多くの人やものを運び続けたＳＬ。震災復興へ向けた復活を、特別な思いで迎える人がいる。

ＳＬ機関士として人生をかけた人、遠野でＳＬと出会い、ＪＲ職員を志し、夢をかなえた青年、ＳＬにあこがれを抱き続け、こだわりの鉄道模型を完成させた人―。

ＳＬはものを運ぶだけではない。多くの人の夢や希望、未来を運んでいた。それらの思いは引き継がれ、きっと、震災復興への大きな力となるだろう。

元ＳＬ機関士

山口京三（きょうぞう）さん

84歳　穀町

夢も希望も未来もすべてを運んだ

昭和19年、15歳のときに国鉄の釜石機関区に就職しました。学校や新聞などで鉄道員募集のチラシを見掛けたのがきっかけ。それから40年間、機関助士、機関士、運転士として勤務しました。

当時の機関士といえば男なら誰でも憧れる花形の仕事。私ももちろんその一人でした。運転は機関士と機関助士が一体にならないとうまくいかないものです。釜石線の道の特徴は頭の中にたたきこみ、機関助士は上り勾配に合わせて、石炭をくべる量を調整。機関士は空気圧、圧力計、スピード計を常に確認しながら、運転します。相当な技術が必要で、うまく運転できるようになるまでには長い年月がかかり、先輩たちには大変お世話になりました。

六両の客車は上りも下りも毎日満員。遠野から釜石製鉄所に通う人、鉱山に向かう人、釜石に通う高校生、行商など、本当にたくさんの人がいました。それだけの人や貨物を常に運ぶ仕事で、本当に誇らしかったです。

毎日、無事にお客様を送り届けることへの使命感を持っていたからでしょうか、今でも終点に到着した瞬間の夢で目が覚めます。責任は重いものでしたが、多くの人に役立つことへの幸せも感じられました。そして、あの汽笛が聞こえてくると、当時のつらかったことやうれしかったことなど、胸にしみ込んだ記憶が鮮明に思い出されます。

ＳＬは私の人生そのもので、多くのことを教えてもらいました。ＳＬには希望や人生、青春や未来、すべてが詰まっていて、時代をけん引する躍進の象徴でした。ただの列車ではない、だからこそ愛着もひとしおでした。

そのＳＬが復活すると聞いたときは夢のよう。お客さんにどんどん乗ってもらい、地域活性化にもつながってほしいです。また子どもたちにとって、ＳＬが夢や希望を運ぶ憧れの存在になってもらいたい。そして当時のようにさまざまな人の思いを運ぶ幸せの象徴となり、震災の復興へ力強く走ってもらいたいです。頑張れ！Ｃ58！

ＪＲ東日本社員

鎌田拓真（たくま）さん

27歳

幼少のころ下組町に在住

ＳＬと出会い夢ができた

列車に興味を持ったのは、遠野に住んでいた小学1年生のとき。友だちに誘われて社会科見学で遠野駅に行き、気動車を見掛け興味を持ったことでした。ＳＬに初めて乗ったのは小学2年生で、遠野―釜石間に乗車。こんなに大きな黒い鉄が、煙をもくもくと吹き上げ、力強く動くことに感激を覚えました。どうしてもまた乗ってみたいと思っていたころ、伝承園にあったＳＬ「クラウス」が遠野駅に展示されることになり、とてもうれしく、親にせがんでよく連れて行ってもらいました。

大きな車輪はどうやって動くんだろう、あの部品はどんな働きをするのか―。ＳＬや電車にどんどん引き込まれていきました。そんな仕組みなどを知りたいという気持ちがずっとあり、機械系の大学に進学。就職ももちろんＪＲを志し、はれて憧れの職に就くことができました。自分が大好きな列車の仕事ができるなんて、本当に幸せです。現在、ＪＲ東日本一ノ関運輸区に務め4年目。気仙沼―一ノ関間を走る列車の点検や修理をする業務で、お客さまの安全を第一に励んでいます。

3年前の震災時は、福島で研修中でした。研修を終えて岩手に戻ったのは5月ごろ。大船渡で被災した車両の調査に行きました。大好きな列車が転がっていることに絶望しましたが、なんとか修復しようと先輩の指導のもと、慣れない手つきで一生懸命修理しました。震災に負けず列車は復活し、現在も力強く走る姿を誇りに思います。

ＳＬとの出会いは、私の人生を変える衝撃的なものでした。子どもたちにもＳＬの勇姿を見てほしい。そして幼いころに抱いた夢を大切に育む気持ちを持ってほしいです。

夫の鉄道模型復活を願った

池田マサ子さん

83歳　上郷町

あなたが大好きなＳＬが復活するよ

夫の一次（かずつぐ）が亡くなり、12年目を迎えた去年、宮守町に住む妹から、夫が大切にしていた鉄道模型を飾ってみないかと話がありました。私も何かのためになるならばと、宮守町のめがね橋実行委員会に寄贈することにしました。同委員長の八重樫正昇（まさのり）さんに直してもらい、多くの人に見ていただけたようで、本当に感謝しています。

夫は日鉄鉱業大橋鉱山へ、毎日上郷駅からＳＬで通勤していました。夫の故郷である釜石の家の近くには線路があり、毎日のようにＳＬを見ていて、夏休みになると一人でＳＬを乗り継いでいろいろなところに出掛けるなど、ＳＬが大好きだったようです。撮影にもよく出掛けていました。口にはしませんでしたが、ずっとＳＬに憧れがあったのでしょう。また高校の電気科を卒業し、その知識も試したかったこともあったようで、退職後にはこだわりを持ってこの鉄道模型を作り始めました。夫はとても多趣味で油絵もやっており、模型の駅や商店もかなり細かく作り上げ、完成には10年がかかりました。モデルはきっと、自分が勤務した鉱山なのかもしれません。

ＳＬの復活を見られたら、夫はどれだけ幸せだったでしょう。大好きなＳＬが来たよ、ちゃんと見ていてあげてねって声を掛けてあげたいです。

過去から未来へ

高度経済成長期、時代の躍進を象徴するかのように、力強く走ったＳＬ。昭和の時代、釜石線は、遠野から釜石へ向かう多くの人でにぎわった。ＳＬは毎日休むことなく走り続けた。

著しい日本の経済成長の中、ＳＬは全廃となった。そのＳＬが約半世紀のときを経て、４月から定期運行される。ＳＬは、人やものを運ぶだけのものではなかったと感じられたからだろう。今、希望や夢を乗せ、未来に向う。震災復興の象徴として、ＳＬに託された役割は大きい。

ＳＬの存在に加え、被災地の復興には、まちとまちのつながりも欠かせない。これまでを振り返り、未来へつないでいくべきものを考える。

ＳＬ。
復興への力。
その、可能性。

昭和年代、遠野駅に停車するＤ50。時代をけん引する象徴かのように、暗がりから後光が差し込む。これからは、復興への光となる

機関士の懐中時計。常に機関士と共にお客様を目的地へ送り届けた（写真は複製品）

ＳＬに未来を乗せて復興目指そう

ＪＲ遠野駅長
川口春貴（はるき）さん
55歳　雫石町出身

震災のあった年の11月から遠野駅に赴任し、今年で３年目を迎えました。現在、グルメマップやＪＲと宿のセット商品の開発、エスペラント語で示された駅看板の更新のほか、他駅と連携を図りながら、ＳＬ銀河運行へ準備を進めています。

私も幼いころ、岩手と秋田を結ぶ田沢湖線でＳＬに乗っていました。ＳＬは私にとって力強く、温かく包み込んでくれる憧れの存在でした。そして今、そのＳＬが復活する沿線でこの職に就いていることに喜びと誇りを感じています。

ＳＬはそれだけで十分な魅力を秘めており、復興やまちの振興のきっかけになる力があります。そのＳＬを復興支援につなげるには、まず遠野が一つになり、お客さまをおもてなしする心を持つことが大切だと思います。ＪＲとして一人でも多くのお客さまを遠野エリアに誘客しますが、市民の皆さまによる食事や特産物でのおもてなし、観光名所への案内などの協力が必要です。そのようにして一人ひとりができることを行えば、まちが元気になります。そして遠野の産業や地域が活性化し、復興へとつながると信じています。共にＳＬ銀河に希望や未来を乗せ、復興を後押ししていきましょう。

まち同士の連携でもてなそう

遠野市観光協会長
荒田良治（りょうじ）さん
57歳　新穀町

平成元年、釜石線沿いの市町村の青年たちに呼び掛け、「ロマン銀河鉄道ＳＬ実行委員会」を立ち上げました。自分のまちだけでなく、鉄路でつながるまち同士、みんなで活性化させようという思いからでした。実現には過去３年間の活動なども合わせ、４年ほど掛かりました。毎週まちの代表が集まり、意見を出し合い、みんな本気で取り組んだことはよい思い出です。

ＳＬが通過する沿線では、遠野のしし踊り、住田町の鉄砲隊、釜石市のよいさなど、そのまちのおもてなしがあり、ＳＬ運行を喜んでくれ、鉄路で結ばれるまちが本当に一つになった夢のような数日間でした。ＳＬはまちをつなぐ架け橋になってくれました。

そのＳＬが震災復興の象徴として復活し、再度携わる立場になったことに大きな巡り合わせを感じています。ＳＬ運行でできた友人やその絆は、かけがえのないものです。復興を果たすにはまちとまちが別々に動くのではなく、あのときのようにまちを超えた連携が必要です。そのためにもまずは遠野市民として、一緒になってもてなすことが必要です。遠野へのお客さまへ、運行日に合せたイベントの開催、遠野名産品の販売、可能性はたくさんあります。ＳＬはまちが発展する大きな起爆剤です。市民一丸となってＳＬ運行を成功させましょう。

とおのＳＬライブラリー

昭和年代、大橋鉱山を通過するＳＬ。多くの遠野の人がＳＬで大橋鉱山へ向った

伝承園に展示されていたＳＬ「クラウス」が駅前に。しばらくの間展示されていた

平成元年、ロマン銀河鉄道の企画で釜石線を走るＤ51。沿線沿いの青年たちが呼び込んだ

釜石線のすべての駅にあるエスペラント語の駅版。平成元年のロマン銀河鉄道の企画がきっかけ

ＳＬの歌がありました♪

昭和25年、上郷村では釜石線全通を記念し、この日のためにＳＬの歌が作曲されました。数年間、中学生などが歌い、全通を祝ったそうです。

※１番の歌詞です

ハア～来たよＤ50
夜明けの村に積んだ宝は
西東西東ヨイヨイ

幸せ運ぶ使者になる

僕
もうあんな大きな
暗の中だって
こわくない。
きっとみんなのほんとうの
さいわいをさがしに行く。
どこまでも
どこまでも
僕たち
一緒に進んで行こう。

宮沢賢治
『銀河鉄道の夜』より

詩人の宮沢賢治による『銀河鉄道の夜』をほうふつさせる宮守町のめがね橋。賢治もこのSLに乗り、何度も遠野にやってきただろう。『銀河鉄道の夜』では、「幸」「しあわせ」という言葉を随所で使っている。銀河ステーションから銀河に向った少年は、友人との会話、さまざまな出会いを通じ、「ほんとうの幸い」を探しに行くことを心に決める。賢治は、SLの旅を通じて、何を感じたのか。

「幸せ」のかたちはさまざまで、人それぞれだろう。しかし、被災地の本当の復興は、決して一人だけが幸せになっても成し得ないのかもしれない。みんなが同じようにそう思わなければ…。

鉄路で結ばれた地域が手を取り合って「ほんとうの幸い」を探しに行く。SL銀河は、その幸せを運ぶ使者になる。釜石線で結ばれた私たち、まちとまちが、ほんとうの幸いを目指して歩めば、本当の復興が近付いてくるのだろう。

高度経済成長期。人生・青春・運命・希望―。多くの人の、すべてを乗せて時代を駆け抜けてきたSLは、数十年のときを超え、今、被災地復興のためによみがえる。SLから巻き上がる黒煙は、これから始まる復興への狼煙(のろし)とも言えるだろう。

私たちのおもてなしが、多くの人を呼び込み、まちが輝く。その輝きはやがて、被災地を照らす、復興への光となる。その使者、「SL銀河」の運行を、釜石市、住田町、花巻市、そして私たち、遠野市民が一緒になって支えていこう。ほんとうの幸い、「復興」のために。

◆特集「SL銀河」おわり

SL銀河のご案内

宮沢賢治が生きた大正から昭和の世界観が表現されている。ガス灯風の照明やステンドグラス、植物をモチーフにしたしきりなど、ゆるやかな個室感とやわらかな光のなかで、非日常を満喫することができる。全体的に賢治の「銀河鉄道の夜」の世界観を感じることができ、小型のプラネタリウムなども楽しめる。

客車は『銀河鉄道の夜』をイメージ

賢治の原稿レプリカや絵画など、車内には随所に賢治が感じられる

時代をけん引したSLの写真コーナー。郷愁を誘うノスタルジックな空間が広がる

◆停車駅・停車時刻

●宮守駅
▷下り釜石行(主に㈯)
11:25着　11:40発
▷上り花巻行(主に㈰)
14:27着　14:34発

●遠野駅
▷下り釜石行(主に㈯)
12:13着　13:30発
▷上り花巻行(主に㈰)
12:41着　13:54発

◆指定席料金　▷大人820円▷子ども410円
※このほか、乗車券も必要です

◆問い合わせ　遠野駅☎0198-62-2809